

指導計画例 別冊

2022

川小社研 研究主題

ともに生きる未来を創造し、  
よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

令和4年度  
4月版

指導計画例 別冊

「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構造図

川崎市立小学校社会科学教育研究会

はじめに～『「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構造図』作成の趣旨と特徴～

## 趣旨

指導要領解説の内容を單元ごとに整理することで、  
先生方のよりよい授業づくりに活用していただく

★以前配付した「指導計画例 2020」と併せてご活用ください

## 特徴

### 1

学習内容ごとに押さえるべき知識等が明確になります！

『「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構造図（以下、理解の構造図）』とは、学習指導要領を基にして單元を通して身に付ける概念的な知識や、学習したことを活用し社会とのかかわりについて選択・判断したり、発展的に考えたりする場面を構造化して整理したものです。ですので、具体的な学習問題や学習活動等につきましては、記載されていません。以前配付した「指導計画 2020」と併せてご活用いただくことで、児童に身につけさせたい力を明確にしたよりよい授業づくりにつながります。構造図に整理することで学習内容ごとに押さえるべき知識等が明確になり、どんな考えを組み立てていけばよいのかを把握することが可能になります。

これらを参考にして、単元で目指す児童の姿を踏まえ「うちの学校だと3年生の生産の単元では、何を扱ったら良いだろうか、野菜の生産農家？それとも製造工場？販売だと〇〇スーパーが良いかな？」など地域の実態に応じて単元を構成してください。

### 2

その単元で何を考えさせていけばよいのかが明確になります！

児童は、学習を通して新しい知識を積み重ねていきます。授業づくりにおいては、児童が得た知識を比較・分類したり総合したり、関連付けたりして何を考えさせていけばよいのかを、授業者が意識しながら学習を進めることが必要です。この構造図に整理することで学習内容ごとに、どんな考えを組み立てていけばよいのかを把握することが可能になります。

### 3

評価の計画に生かすことができるようになります！

「理解の構造図」を作成することで、内容の理解を確かなものにすることは勿論のこと、よりよい評価の計画にもご活用していただけます。学習を通して「着目すること」「まとめて分かること」、そして「社会との関わり」について書かれているため、児童の学習の様子を見ながら指導と評価に生かすことができるようになります。記載内容については例ですので、特に「社会との関わり」については、学校目標や学級目標、児童の実態を踏まえながら実際に先生方に書き直していただけるとよりよい授業づくりにつながると思います。

# 4

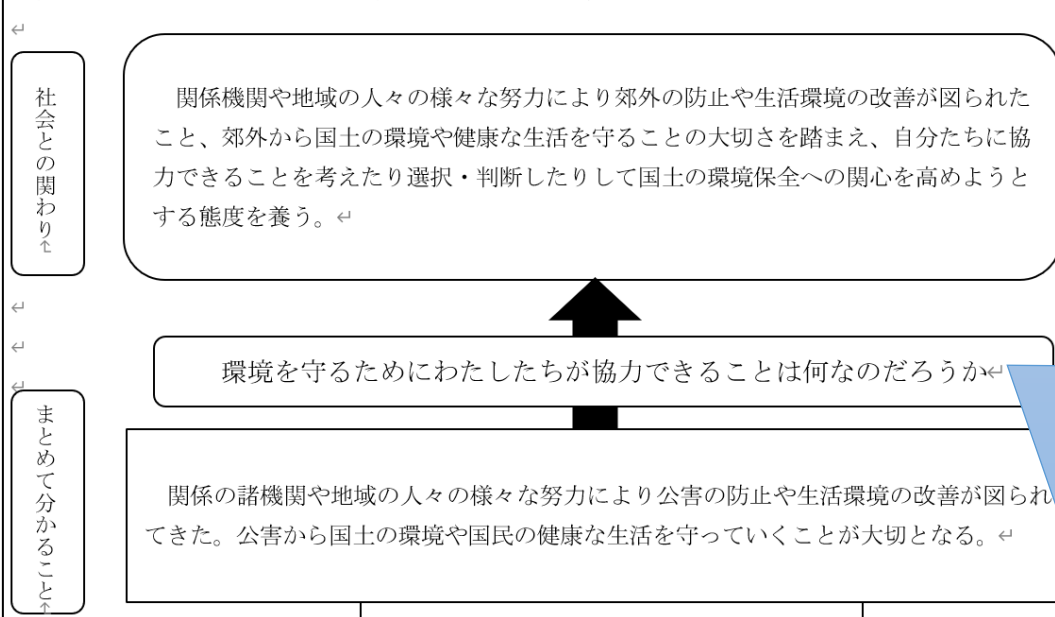
## 「よりよい社会の在り方を考え続ける」社会科学習に活用できます！

社会科における「主体的に学習に取り組む態度」の一つとして「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に活かそうとする態度」が示されています。具体的な学習場面では、「(産業の発展などを)多角的に考える」場面や「社会への関わり方を選択・判断する」場面です。

「理解の構造図」では、矢印と四角囲みで「社会との関わり」について考えることができるような学習問題例を記載しています。このような単元のねらいに応じて多角的に考えたり、選択・判断したりする学習問題を設定することで、そのような姿を目指すことができるようになります。

例)

資料. 「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構造図



「社会との関わり」について多角的に考えたり、  
選択・判断したりする学習問題の例

学習指導要領の各学年の「内容の取扱い」に「多角的に考える」「選択・判断」等が示されている箇所

学年	内容	内容の取扱い
3年	(3)「地域の安全を守る働き」	選択・判断
	(4)「市の様子の移り変わり」	発展
4年	(2)「人々の健康や生活環境を支える事業」	選択・判断
	(3)「自然災害から人々を守る活動」	選択・判断
	(4)「県内の伝統や文化、先人の働き」	選択・判断
5年	(2) 我が国の農業や水産業における食糧生産」	多角的、発展
	(3)「我が国の工業生産」	多角的、発展
	(4)「我が国の産業と情報の関わり」	多角的、発展
	(5)「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」	選択・判断
6年	(1)「我が国の政治の働き」	多角的
	(3)「グローバル化する世界と日本の役割」	多角的、選択・判断

## 「社会のしくみ」と「社会との関わり」をつなぐ理解の構造図 解説

学習指導要領を基にして単元を通して身に付ける概念的な知識や、学習したことを活用し社会とのかわりについて選択・判断したり、発展的に考えたりする場面を構造化して整理したものです。

子どもたちは、単元の学習を通して新しい知識を積み重ねていきます。その単元で何を学ぶのか、そこから得た知識を比較・分類・総合したり、関連付けたりして何を考えさせていけばよいのかを、授業者が意識しながら学習を進めることが必要です。この構造図に整理することで学習内容ごとに押さえるべき知識等が明確になり、どんな考えを組み立てていけばよいのかを把握することが可能になるとともに、評価の計画にも生かすことができるようになります。

